

吹田市地域自立支援協議会 地域会議について

1. JR以南 地域

年度	令和4年度	センター名	内本町障がい者相談支援センター
取組内容	- 精神障がいがある人が地域で生活するうえで直面している困り事について考える。 - 精神障がいがある人が地域で安心して生活していくために、地域課題としてまず取り組むべき課題は何であるかを検討する。		
取組で良かったこと	- 挙げられた困り事をそれぞれ①社会資源②障がいの理解③人材不足④経済⑤障がい特性にカテゴリー分けをして課題を分析、整理した。 - 課題を検討した結果、精神障がいへの理解不足が他のすべての問題の根底にあり、重点的に取り組むべき課題であるという結論に達した。		
今後取り組みたい内容	精神障がいへの理解を深める為には、まず当事者や家族の思いを受け止めることが必要であると考えられる。また、精神障がいを正しく理解してもらうために、今後はあらゆる機会を通じて地域への理解啓発活動を行っていきたい。		

2. 片山・岸部 地域

年度	令和4年度	センター名	片山・岸部障がい者相談支援センター
取組内容	【目的】 精神症状で危機的な状況に陥った場合～地域共生社会に向けて、吹田で行えることを考える～ ・ 第1回 事例検討 : 2事例の検討 ・ 第2回 グループワーク : 地域で生活している住民として考えてみよう ・ 第3回 地域アセスメント : 社会資源・実態調査の検討		
成果	医療・福祉・行政等、関係者の顔が見える関係づくりの機会となった。 重層的支援体制を考慮して、保健所・社会福祉協議会・ぱらっとる一む・生活困窮・こども発達支援センター・地域包括支援センター・訪問看護事業所・医療機関・児童や障がい福祉の事業所などで地域の課題を協議する機会となった。		
今後 取り組み たい内容	地域アセスメント(地域の現状把握)として、 ・ 社会資源の見える化 (フォーマルとインフォーマル 地域とのつながりに向けて) ・ 実態調査 (相談内容の見える化と分析)		

3. 豊津・江坂・南吹田 地域

年度	令和4年度	センター名	豊津・江坂・南吹田障がい者相談支援センター
取組内容	・ テーマ「母子支援に関わる課題等の検討」 福祉、医療、教育、行政それぞれの立場で事例を通して見えてきた意見を抽出した ・ 関係機関とより連携を深めるためにはどうすればよいかグループワークを行った ・ 各関係機関と地域との繋がり ・ 相談窓口の一体化		
取組で良かったこと	・ 各関係機関との顔の見える関係作り及びネットワークの構築 ・ 各関係機関の役割又足りていないサービス等が明らかになった ・ 家族支援、通学支援、就学前のはざまの支援がない等の課題が見えてきた		
今後取り組みたい内容	・ 母子に対する相談体制のマニュアル作り ・ 地域の放課後等デイサービス協働でイベントの開催		

4. 千里山・佐井寺 地域

年度	令和4年度	センター名	千里山・佐井寺障がい者相談支援センター
取組内容	① 障がい等がある人の災害時の避難と避難時の困りごとについて考える ② 障がい等がある人の日中活動の場の紹介と地域とのつながり		
取組で良かったこと	① アンケートでは全ての回答者から「よくわかった(当事者の思い)」という回答が得られた。「個々の備え」「避難のための準備」「避難所での合理的配慮」「備えや共助で解決が難しいことの把握と対応検討」環境や情報及び配慮、医療等の避難課題が明らかになった。 ② 地域にある通所系の事業所・内容を初めて知る機会となった参加者が多数おられた。地域との交流機会づくりにも積極的な意見がいただけた。引きこもりの考え方や支援の実態、8050問題への関心の高さがアンケートより伺えた。		
今後取り組みたい内容	・ 地域の災害時連携会議が今後行う自主防災活動への参画と、地域の障がい者等との平時の繋がり形成。支援者がいない当事者の災害時要援護者個別避難計画作成に向けた本人支援。 ・ 地域の集まりなど、依頼を受けて行う障がい福祉に関すること等の講座(出前講座・地域会議でチラシ配布済) ・ 地域住民と関係機関で考える8050問題と障がい者支援。		

5. 山田・千里丘／千里NT・阪大・万博 地域

年度	令和4年度	センター名	亥の子谷障がい者相談支援センター 千里ニュータウン障がい者相談支援センター
取組内容	- 地域会議を運営する構成員(サービス事業所・医療にかかわる機関・社会福祉協議会・大学の先生などで構成された9機関13名＋事務局として2センター)とともに、3年間の任期で地域課題を導き出すところから討議を開始 - 千里ニュータウン・亥の子谷、双方の地域における共通課題(事業所が少ない、大型マンションの建設が予定され、人口流入が激しい等)を理解し、「ネットワークづくり」をテーマとすることを全員で確認 2022年度は3回(9/20・12/16・2/24)の会議を開催し、次年度以降、具体的な検討に着手		
成果	- 構成員とともに事前アンケートに取り組み、好事例の共有・個別のケース検討・協議を通じ、地域における共通課題を「ネットワークづくり」と導き出したこと - 事例検討においては、「地域住民の立場で何ができるのか」「(インフォーマルサービスも含め)何があったらいいと思うか」という視点で協議・検討できたこと		
今後 取り組み たい内容	「ネットワークづくり」については、ソーシャルワークにおける「マクロ」のレベルの視点を持ちながら、当事者をはじめ地域の声を聴き、これらが必然的に“地域のニーズを知ること”につながるよう、構成員とともに活動をすすめる - 次年度以降、＜Team kitaラボ＞で「まなぶ」「つながる」「しらせる」の活動を始動することを確認。各ワーキングも含め「ネットワークづくり」を具体的に進めていく。また、構成員を増員し組織強化を図り、年度はじめには、再度全体で認識を共有・確認していく作業を検討		